



インセム

↓↓↓ 越流した場合においても破壊しない構造の開発 ↓↓↓  
建設工事の各分野で普及している補強土工法を津波防潮堤の構造設計に採り入れることで実現

## kyosei 特長 kyosei

### ■ 構造面 ■

#### 一INSEMダブルウォール防潮堤は、粘り強い補強土構造物

中詰材にソイルセメントを使用し、表・裏のり被覆工とタイ材で締めつけることによって補強した補強土構造物です。

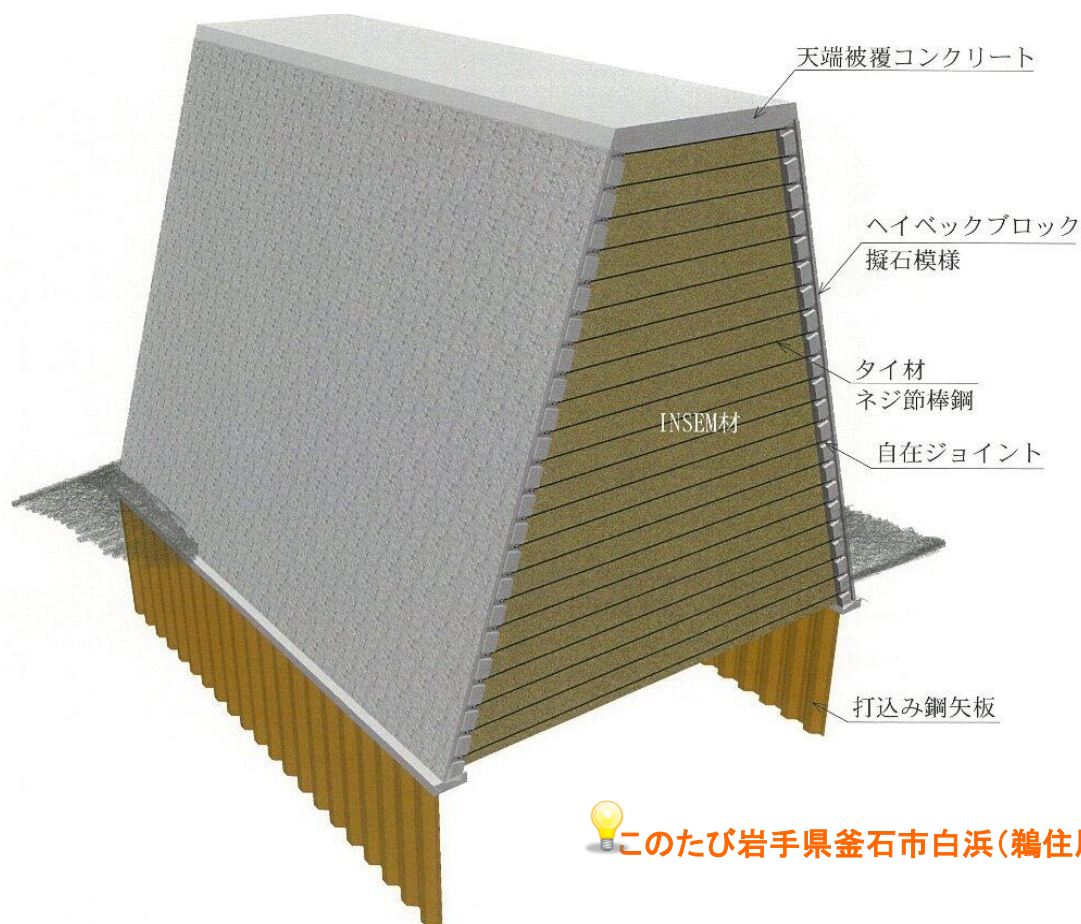
#### 一傾斜堤の懸念や問題を解決

被覆工と中詰材とは、タイ材等で繋ぎ一体化しており、傾斜堤で懸念される被覆ブロックのめくれ上がり、引き波時における表のり面の円弧すべりの問題もなくなり、粘り強い構造となっています。

#### 一侵食、洗掘による中詰流出の心配なし

圧縮強度0.5～1.5N/mm<sup>2</sup>の強固なソイルセメント固化体となるため、盛土のように侵食や洗掘によって流出する心配もなくなり安定した構造となっています。

#### 一更に液状化などに対しても備えあり



このたび岩手県釜石市白浜(鶺住居)漁港海岸

## ■ 施工面 ■

### 一 所要用地を大幅縮小

繋いで補強したことでのり勾配を立てることができ、大幅に所要用地を狭くすることができます。

### 一 工期の短縮

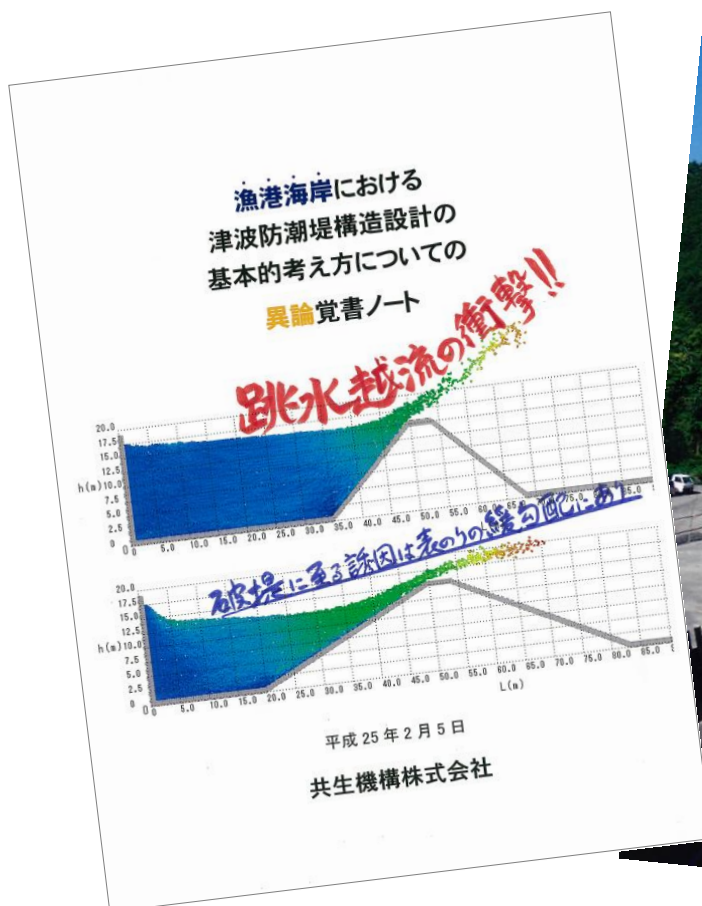
表・裏のり面をタイ材でつないでいることから、INSEM材の強度発現を待つことなく連続施工が可能であり、工期短縮が図れます。

### 一 スムースな施工計画

壁面工をコンクリートブロックではなく鋼矢板にすることで、1次施工段階として鋼矢板の壁面工で安定した堤体を構築した後、コンクリートによる2次施工ができるためコンクリート資材の需給状況に影響されずに工事を進めることができます。

## ■ 耐久性と維持管理面 ■

一 補強材である鋼材は、ソイルセメント固化体の中に埋め込まれるため、腐食の心配もなくなりメンテナンスフリーとなります。



※ 詳しい資料もご用意しております。ぜひお問い合わせください。